

大原社会問題研究所五十年史

II 創立当初〔一九一九～二二年〕

「大原社会問題研究所パンフレット」の発行

一九二二年 大正一一年 大原孫三郎氏は一九二二年の頭初、大原農業研究所、労働科学研究所および社会問題研究所の特別図書費として一〇万円の支出を決定したが、社会問題研究所はその内一万円の割当てをうけた。前年、櫛田、久留間両氏は研究所の図書蒐集費として四万余円を携行して渡欧したことはすでに記したところである。両氏はこの年の八月一五日帰朝した。

調査事業は、労働組合、賃金その他に関しそれぞれの担当者によってすすめられた。また機関雑誌(仮称「社会問題」)の発行については、高野氏はじめ研究員は一九二一年以来しばしば会合をもって案を練った。しかしこの計画は種々の事情のため延びのびとなり、二三年にいたりようやく第一号の誕生を見ることになるが、それについては後にのべることにする。しかし不定期刊行の小冊子「大原社会問題研究所パンフレット」の第一号が五月二五日附で発行された。内容は内兵衛『資本主義国家の一帰着点—独逸戦後経済状態』である。この後パンフレットはひきつづき刊行され、高野岩三郎『現実と理想と空想』、北沢新次郎『I・W・Wの先駆としてのナイツ・オブ・レーバー』、森戸辰男『ロシヤ大飢饉と其救済運動』など、本年で七冊を世に送った。また「大原社会問題研究所叢書」第五巻として大林宗嗣『民衆娯楽の実際研究』、久留間鮫造、丸岡重堯共著『本邦消費組合論』が、定期刊行物としては、『日本労働年鑑』、『日本社会衛生年鑑』、『日本社会事業年鑑』がそれぞれ刊行された。

なお東京事務所は一月二六日より市外大久保百人町三一一番地に転じた。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

[研究活動・刊行物](#) [OISR.ORG全文検索](#)

[法政大学大原社会問題研究所\(http://oisr.org\)](http://oisr.org)